

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社R-CORPORATION

②施設・事業所情報

名称：聖保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：大山 毅	定員（利用人数）：108 名	
所在地：〒222-0037 横浜市港北区大倉山3-41-17		
TEL：045-543-3695	ホームページ： http://hijirihoikuen.com/index.html	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2005年04月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：特定非営利活動法人 ノエル		
職員数	常勤職員：23 名	非常勤職員：17 名
専門職員	（専門職の名称）：名	看護師：1名
	保育士：31名	管理栄養士：2名
	栄養士：2名	調理師：1名
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	居室：0歳児室	設備：調理室
	居室：1歳児室	設備：事務室
	居室：2歳児室	設備：医務室
	居室：3歳児室	設備：幼児用トイレ
	居室：4歳児室	設備：屋上園庭
	居室：5歳児室	設備：屋外園庭
	設備：カントリーログハウス	

③理念・基本方針

<保育理念>

目の前に困っている人がいたら、ずっと手を差し伸べる。

<基本方針>

- 子どものことを第一に考え、地域のニーズに合った保育を行う。
- 小学校への入学を円滑に行えるようにする。
- 障がい児を積極的に受け入れる。

<保育目標>

1. 正しい生活習慣を身に付ける。
2. 優しい心と思いやりの心を育み、友だちと上手に遊べるようになる。
3. 善悪の判断ができるようになる。
4. 人に迷惑をかけないようになる。
5. リーダーシップをとれるようになる。
6. 限られた資源を大切に持つ心を持つ。

④施設・事業所の特徴的な取組

<保育方針>

1. 保育所保育指針を柱としたバランスの良い保育
2. 子どものことを第一に考え、地域のニーズに合った保育
3. 創造性を育み、子どもの明るい将来へと繋げる保育
4. 小学校への入学をスムーズに行えるよう配慮したカリキュラムづくり
5. 食育を通じ、心身ともに健康な身体づくり
6. 障がい児を積極的に受け入れ、ノーマライゼーションの気持ちを育てる
7. 外国籍の子どもを積極的に受け入れ、国際的な感覚を身に付ける
8. 保護者や地域とのコミュニケーションを大切に環境づくり

<聖保育園の特徴的な取り組み>

- 英語・体操・絵画造形・幼児等の教室を専門講師に依頼している。
- カリキュラムの作成
- 研修等への積極的な参加

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年10月05日（契約日） ～ 2023年04月13日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2016年度）

⑥総評

【聖保育園の概要】

●聖保育園は、特定非営利活動法人ノエル（以下、法人という）の経営です。法人は横浜市港北区大倉山で聖保育園と聖保育園第二の2園を運営しています。法人名、保育園名、理念については、創設者夫妻がキリスト教徒であり、保育理念は、パウロ永井隆博士の言葉に感動し、「目の前に困っている人がいたら、すっと手を差し伸べる。」を引用し、園のモットーとしてその言葉に沿った保育を実践しています。現在は、キリスト教を根幹に持ちながら、あらゆる宗教を否定しないスタンスで保育を行っています。

●聖保育園は、東急東横線大倉山駅から、線路を挟んで西側商店街の並びに聖保育園、大倉山駅の線路を挟んで東側住宅地内に聖保育園第二が位置しています。大倉山商店街の景観は白基調で統一されている中、聖保育園の3階建てのピンク色の建物が目を引き、子どもにも分かりやすく気持ち足早に通え、聖保育園を印象付けています。活気溢れる大倉山商店街と共に、聖保育園の子どもたちも元気いっぱい、入園希望者も後を絶たず人気の保育園です。

●聖保育園の保育方針を集約すれば、「子どもを第一に考えたカリキュラムで子どもの未来まで繋げる保育」と言えます。将来的に基礎となる乳・幼児期に受けた教育、人間作りの基礎を保育・教育によって「生きる力」を育成します。変化の激しいこれからの社会を生き抜くために「体力」、「豊かな心」、「学力」の3つをバランス良く育み、子どもたちの将来へつなげる保育を実践しています。保育園の意義と共に保護者のニーズ、子どもの将来を見据え、①「英語教室」（ネイティブ講師）をプログラムに取り入れ、国際的な感覚を身に付けるため外国籍の子どもも積極的に受け入れています。また、②「幼児教室」や③体操、④絵画造形等を採用し、専門講師を招いて希望者（条件有）に有料で提供しています。また、障がい児を積極的に受け入れ、ノーマライゼーションの気持ちを他児と共に育成する等、子どもたちの将来へつなげる保育・教育を実践していま

す。

◇特長や今後期待される点

1. 【保育の想い】

聖保育園の保育理念である、「目の前に困っている人がいたら、ずっと手を差し伸べる」を実現するために、外国籍の子ども、障がいのある子ども、そして援助が必要な子ども等、分け隔てなく積極的に受入れるようにしています。子ども一人ひとりの将来を考え、「未来を創る。心を育てる。生きる力を蓄える。」の実現を目指し、園のベクトルの統一を図り、職員一人ひとりの特色やスタイルを生かしながら協力体制を敷き、保育・「聖保育園」作りに「想い」を乗せて実践しています。

2. 【挨拶ができる子どもを育てる保育】

挨拶は人との関わりを広げ、自主性の芽生えを支えています。聖保育園では、子どもが自然に挨拶ができる環境作りに努め、保育士は率先垂範を行い、子どもが保育士等に挨拶をした時には「うれしかったよ」と声をかけ、挨拶をしてもらうと人は嬉しい、挨拶すると気持ちが良いことを伝え、積極的に挨拶ができるよう、子どもの気持ちに届く言葉で導いています。散歩時には、お店の方等に進んで挨拶する子どもたちの姿が見られます。これこそが聖保育園の「ねらい」であり、子どもの自信となり、人との触れ合いの喜びにつなげています。

3. 【子どもの心を育てるインクルーシブ保育】

聖保育園では、子どもの年齢や国籍、障がいの有無に関わらず、様々な背景を持つ子どもを同じ空間で受入れ、全ての子どもが個々に必要な援助を受けながら一緒に成長できるような保育に取り組んでいます。どのような子どもでも伸び伸びと成長できる環境を整え、立場の異なった関わり方を互いに学び、対等な関係性を保ち、助け合えるよう支援しています。子どもたちは、相手を思いやることや、相手の考え方を尊重することを学んでいます。このインクルーシブ (inclusive) 保育では、障害のない子どもにとっても将来あらゆる人と共存できるように、子ども同士が互いに認め合いながら、自立に向けた保育に取り組んでいます。今後のさらなる展開や工夫に期待が寄せられます。

4. 【子どもの「食」の興味を引き出す保育】

聖保育園では、食べることに興味を持つことを根幹としながら、食材に関心を持ち、「感動する心」を育てています。園内で野菜を栽培し、「植える」「育てる」を体験し、自分たちの手でいのちを育て、成長に感動し、自然への好奇心を育てています。収穫した野菜は自分たちで調理して美味しく食し、夏は野菜カレーを作りました。育てることと、食べることのつながりを学び、植育から始まる食育体験は、子どもたちの生きる力、喜びを育てています。秋には芋掘り遠足に出かけ、掘ってきたさつま芋でスイートポテト作りを体験する等、様々な食育活動を積極的に取り入れています。土に親しみ、土の中のさつま芋を見つけて根をひっぱり、掘り上げた子どもたちの体験は貴重であり、感動する心につなげています。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

施設名：特定非営利活動法人ノエル 聖保育園

<評価（自己評価等）に取り組んだ感想>

まずは、この度の第三者評価に携わっていただいた全ての方に、深く御礼申し上げます。ここ数年の間は、コロナ禍によりなかなか思うような保育を行えないこともありました。そのような中ではありますが、保護者様方から数多くの温かいお声をいただいたことは、我々保育者にとって、とても励みになりました。高く評価していただいた点につきましては、更に磨きをかけていければと考えております。一方で、いくつかのご要望もございました。全てのご要望を叶えることは残念ながら出来ませんが、貴重なご意見として受け止め、日々の保育に活かしていきたいと考えております。未来を担う子どもたちのために、これからも尽力して参ります。本当に、ありがとうございました。

<評価後取り組んだ事として>

1. 服装や持ち物についてルールブックのような統一した見解が欲しいとの要望がございましたので、保育園生活に適した服装と適さない服装についてのお知らせを作成し、配布致しました。
2. 保育の質について、多くの方から高い評価を受けました。これらを踏まえ、引き続きニーズに合った保育を行っていきたいと考えております。
3. 登園している子どもが楽しそうだったお声を多数いただきました。ただ単に遊ぶだけではなく、しっかりとしたカリキュラムに則った保育を今後とも続けていければと考えております。

⑧第三者評価結果
別紙2のとおり